



柴田善二先生語録

木にきけ

木彫は、木と相談しながらせんと

木はみんな違うから

育った場所、自然、年月、木にきいて、面をきめていかな

木に対峙するときは、謙虚でなければいかんよ

木の中には宝物が入っている



《柴田善二（56才時）》

ノミ研ぎ三年、彫り八年

作品作りはね、汗流さんとね
結局「気合い」なんよ

不器用な奴が作り続ける
俺は褒めと一とぞ

自分のなかに心棒を持って生きれば、
あんたが生きた彫刻になる



《フラミンゴ》2018 年



柴田善二《イボイノシシ》1990年

(馬の作品を作っているときのアドバイス)
あのな、たてがみやらゴチャゴチャつくらんと
「説明」やなく、「馬」を作らんと

頭の中にかたちが見えとるか？
見えとったら出来るけん



《街の中のチーター》2011 年

線ではなく面で捉えろ

前の面を彫る時は、後ろの面を感じながらつくりたいかん

(木取りは) ギリギリのラインをとれ。そこが甘かったら、
最後までぼーっとした作品しか出来んたい

心棒が大事。彫刻は、スキッと立たせな



《アフリカ・AFRICA》2006 年

自分が 100 感じて、相手には 1 しか伝わらん。まずは感じること。

対象を大きいと感じると、作品は大きくなる

アフリカに行ったとき、
動物が車にひかれて道路で死んどうところは可哀そうと思ったばってん、
不思議とライオンとかが動物を捕まえとうところはそう思わなかった。

まず自分が感動したらんかったら、
絶対人には伝わらん

アフリカでは、夜空にバーっと星が輝く
ビッシリ、隙間のないごと光るとぞ

教師があればこれ余計なことせんだってよかと
こげなことせんだっちゃ、本物を見せればよかと

本物見て感動すれば、
それが作品に生きるったい



《白サイ》2005 年

俺は学生時代、モデルさんが来るときは、
モデルさんが寒くないように早く行って部屋を暖めて準備していた。
その時黒板に塑像の心棒の入れ方を描いっとたら、授業が始まり、
みんなが石井（鶴三）先生が描いたと思って写し始めた。
さすがに俺は知らん振りしとった。

石井鶴三みたいにスケッチブック持って相撲取りば描いてみたけど、
ほんと難しかとぞ、あんな風にはできんかった。

石井鶴三先生が「彫刻の基礎は塑像がよい」とおっしゃったとき
「いや私は実材の方が勉強になります」と主張した。
先生はわざわざ制作中の作品をみにきてくださり、40分ほど話され励ましてくださった。
若い未熟者に対してここまで親切にしてくださるのかと、ほとほと感心した。

辻晉堂先生のアトリエで、ちょっと制作しよったけど、
あまりにも（辻晉堂の）作品が強すぎて、
全部シーツをかけて見えんごととして仕事をした。

この前の個展の時、浜田（知明）先生が一番最初にきんしゃって、緊張した。
やっぱり浜田先生は鋭くて、すべて見抜かれているようで怖いったい。



柴田善二《カバの親子》1981年

親が、なぜ赤ちゃんを可愛がるか、知っとるか？
生き物の赤ちゃんは、形が可愛いだろうが。
形が可愛いわけよ

もっと物事の本質を、感じて作らんといかん

石井鶴三先生が馬をつくっていた時期、
校内で先生が歩くときは、時々馬のように後ろ足を蹴っていた。
あー、いま先生は馬のこと考えているな、とみんなで話していた。

カバを作ったとき、不思議とテレビや新聞にカバが出てくる

(久留米医大の小児科待合室) 成長ホルモン療法を受けている女の子が
「ここがいちばん好き！」と、先生のカバの背中を抱きしめていた。

どこの世界にも足をひっぱるやつはおる。気にするな。

スワヒリ語で、なるようになる、
ということポレポレっていうと



《そこにハエが一匹》1969年

出と一けど引っ込んどー。
そうそうそげな風に見えるなー。
俺もそうおもう！

(ピカソの《ヒヒの親子》について)
車のボディをヒヒの顔にするとか、
普通じゃ思いつかんとよ

要は発想力の問題。
面白くないもんは、
どんなに時間をかけてもダメ

ユーモアが大事。
笑うとやない。笑わせることが大事

自分のスタイルを変えようと思って、
どんだけ頑張って変えたと思っても、
周りから見るとほんの数ミリくらい
しかかわっとらん



《オランウータン》

若い時につくった作品も大事にしとかないかん

私がいつまでも学生のような作品で恥ずかしいと言うと
「あんた、自分だけが恥ずかしいと思えよ。俺だって恥ずかしいとよ」

(卒展の批評会の時、他の先輩方に向けて、柴田先生が私をかばってくれた言葉)
「まあ、こいつもがんばりようっちゃけん、許してやって」



「創造力が無いとか言ったら絶対いかん！」

「青春っちゃんや？」

「若さですかね～」

「お前つまらんね～」

「先生の青春って何ですか？」

「挑戦する気持ちたい！」

「小市民的にかたまるな。外にでないかん」

卒業生がそれぞれに仕事の悩みを吐露しているのを静かに聞いていた柴田先生が言った言葉。

「おまえらはくさ、美術科やろうが。」

美術をやりようもんが一番大事なことはなんな？…自由たいっ！」

「あんたが作りたいうように作ればいいたい」

いい作品は、「私はここにいる。あなたは？」と
こちらに存在を問いかけてくるとよ



《バブーン》2022 年

(ピカソの《ゲルニカ》について)
この手を見ると、悔しい気持ちが、
これ以上ないという力で握っていることが伝わってくる。
ピカソの凄さって言うのは、
込められた感情とか見えにくい本質を絵で表せること

「何で彫りようとか？」

「単位とるためです」

「お前つまらんね～」

「先生は何で彫るんですか？」

「生きる証たい！」

(雪舞う野外で、等身大の子象を彫りながら)
俺はこれしかできんけんやりようとかたい。
これしかなかろうが。

(祈る女の子の小さなテラコッタについて) 卒業生がきて、
自分の子供が重い病気になったと話し、帰っていった。
俺は何にもしてやれんけん、そのテラコッタを作ったと

信じていれば、良いことがある。

信じて彫刻をして下さい。



《オランウータン》1986 年

仕事に疲れた私は、「自分がいやになった」と先生の前で本音が出た。
「そんなことを言うな。つまらん人間のことより、平和やら環境やら
あんたにはもっと大事なことがあるやろう！」
と先生は顔色を変えられた。

ウクライナの戦争の際は、浜田知明先生をあげながら、
「あんたも表現者の一人なら、何か作らないかんじゃないと？」
と語られた。アレから私は何があっても「もっと大事なこと」を思い出し、
乗り越えようとしている。

「ピカソはゲルニカを描いたけん、一段上にいったと思う。」

「あなたは目の前のことを一生懸命やりなさい」

「青春とはチャレンジし続けることったい」

ダルマストーブ上で(インスタントの)ポップコーン調理鍋を弱火で炙っていた時のこと、
遠火でかざす学生に待ちきれず、先生は「貸してんやい」と奪うと
ストーブに鍋をくっつけた。ポップコーンは一気に破裂。全て黒焦げになった。

(東京の美術館のレストラン。テラス席で先生と二人、
昼食をとっている時、近くに小鳥がやってきました。
先生は私が食べているサンドイッチを少し分けてくれと言われ、
ちぎって小鳥たちにやりました。
それから、ほぼ満席で困っている女性がウロウロしておられるのを見て、
先生が隣の席を勧められたのですが、その方は座られませんでした。
先生は笑いながら)

「博多弁にびっくりしたっちゃんないと」

(英ちゃんうどんにて。
学生のうどんがまだ半分残っている頃、
すでに完食した先生)

「よし、帰るぞ」



「あれ取ってこい」
「あれたい、あれ」
「こげんとたい」

「お前ら、そげな暇あったら仕事せ～」



(みんな) もうちょっと自分を反省して、相手をちゃんと尊敬すること。

芸術とか何とかいうより、『幸せ』ということが大事。

それを心に、がんばってください。

今日みんなと会えたことは、ほんとに幸せよ。

教育大ではろくなこと教えとらん。

反面教師もいいとこやったと思うけど (笑)。

教えたというより、してきたことをみんなが許してくれて、現在があるわけよ。

教育大に務めさせてもろうた 37 年。

みんなが卒業し、立派になってがんばりよる姿をみるのが、

今となっては幸せやなーと思うわけよ。

健康第一ということを忘れず、体に気をつけて、無理せんで、絵を描いたり、

彫刻したりしてください。

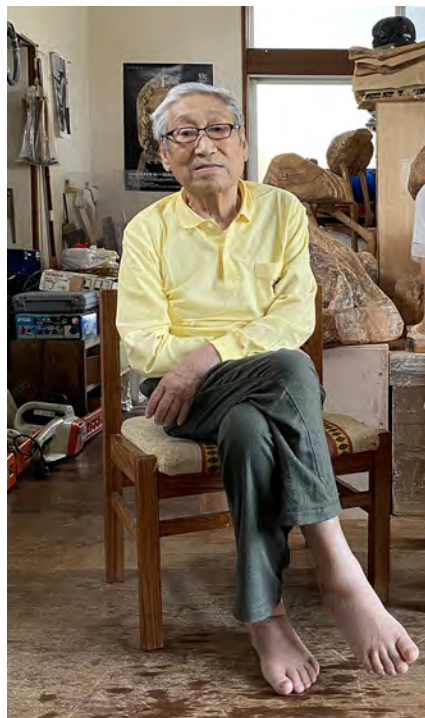
そしたらね、下手な彫刻でもね、自分の心の発散になるっちゃん。

僕もね、下手な彫刻を反省しながら作っています。

作りよらんかったら、自分を臍抜けのごと感じる。

作りよったらね、女房もなーんも文句いわん。片付けもしてくれる (笑)。

まー、そういうこともふくめてね、みんな元気でね、いい年を迎えてください。



「柴田善二先生語録」

2022年10月発行

企画／制作 知足美加子

レイアウト 上原祥子

